

■第7回神戸市地域公共交通活性化協議会 主な意見

【開催日時】令和2年10月9日（金）10:00～12:00

【開催場所】三宮研修センター 6階 605会議室

【出席者】委員35名（欠席1名）

【議事（主な意見交換の内容）】

議事（1）神戸市地域公共交通網形成計画の進捗

○神戸土木事務所 松本委員

公共交通分担率について、アンケートをもとにH22のパーソントリップ調査を補正した数値とあるが、回答率はどのようになっているのか。

○事務局

1,000サンプルを目標として調査するが、回答者にポイント付与がされる形式のアンケートのため、回答率でいうとほぼ100%といえる。

議事（2）神戸市地域公共交通網形成計画の中間見直し素案について

○神戸大学 正司委員

- ・三宮のバスターミナルについて、具体的な内容が明らかになっているのは主にⅠ期のみだが、Ⅱ期・Ⅲ期とあわせた整備を行うことで、三宮の貴重な空間をうまく使えるようにしてもらえればと思っている。
- ・コロナの影響による生活様式の変化がどうなるのか想像するのは難しいが、次の世代にやさしくなるような生活様式になってほしいと思う。わかりやすいのはSDGsの指標だが、SDGsと両立する機会をむしろもらったということで、公共交通のあり方を考えていくことが大切である。

○武庫川女子大学 水野委員

- ・地域コミュニティ交通において、市街地に対する支援拡充を書き込むということだが、この5年間での導入支援地区数が少し滞っており、滞っている理由等の振り返りが必要ではないか。
- ・WEBアンケートで施策評価等を行っていくのはよいと思う。人の移動を考えたときに、年齢、性別等の属性もあわせて観察することで、毎年の変化がよりはっきり見えてくるのではないかと思う。

○神戸大学 織田澤委員

- ・数値目標の「都心・観光地での交通手段利用割合」について数値が停滞しているようだが、調査対象者にはインバウンドも含まれるのか。施策5に、今後どう取り組んでいくのかアピールできたらよいのではないか。
- ・都市空間向上計画は網形成計画と両輪の関係だとされているが、明確に色分けがされることへの懸念に対して、網形成計画において、施策3や6でカバーしていくことを市民にアピールしていくことが大事だと思う。

○事務局

- ・バスターミナルのⅡ・Ⅲ期についても、引き続き内部の検討など進めているので、公表できるタイミングになれば随時公表していく。
- ・コロナの影響については、例えば六甲山・摩耶山上では、まやビューラインなど公共交通機関の利

用者が減っている。一方、例えば六甲山牧場では対前年比の来場者数・駐車場の利用者数が増えており、公共交通機関の利用が減り、自家用車の利用が増えているということは認識している。今後も、マイカーからの転換促進など取り組んでいきたい。

- ・数値目標「都心・観光地での交通手段利用割合」の調査対象については確認する。なお、2018年から調査の手法が変わっており、2017年以前の数値と出し方が異なっているため、今後の数値の動向を見て、その動向次第では数値の出し方等について今後のご相談とさせていただきたい。施策5でのアピールについて、山上の公共交通としては、六甲山上と摩耶山上でバスのダイヤがあっていないなどの課題を抱えているため、既存の交通機関の再編に加え、新たな交通手段の導入など、しっかりと山上の回遊性向上や山上へのアクセスなど検討しており、計画へ追加していきたい。
- ・都市空間向上計画について、50年先も心地よく健やかに住み続けられるまちを目指しており、網形成計画との両輪で、市民にとって安全安心で住みやすいまちづくりにしっかりと取り組んでいきたい。
- ・地域コミュニティ交通の支援地区数については、当初地域の交通について意見が出されている30地区を目標に設定している。実際に地域で活動し、取り組んでいきたいという地域に支援をしている。市が開始したのが平成26～27年であり、これまでの内容について振り返り、試行錯誤しながら取り組んでいきたい。その一つとして市街地での本格運行支援の拡充、地域、交通事業者、市の3者での体制に変更し、地域がより導入に取り組んでいきやすい制度にしたため、支援地区数も増えていくのではと考えている。都市空間向上計画との関連では、山麓・郊外居住区域の地域について、実際に交通の課題も聞いているので、一緒に取り組んでいきたいと思っている。

○神戸市自治会連絡協議会 岩佐委員

交通に対する不便を感じる市民とそうでない市民と様々だが、住んでいれば快適な生活を送りたいと思うものなので、地域によって事情はあるとは思いますが、できることを取り組んでほしいと思う。

○神戸市婦人団体協議会 高尾委員

まず北神急行線の市営化についてお礼を申し上げたい。北区は人口減少が進んでおり、市営化は大変ありがたく思っている。

北区は神戸電鉄を利用する人も多いが、神戸電鉄に接続するバスの停留所までが遠く、停留所まで車を使ったり、そのまま駅まで車で送迎したりと、自家用車を利用する人が多い。コミュニティバスを求める声も多く、引き続き市からの支援もお願いしたい。

バス停への屋根やベンチについては、立地条件等で設置が難しい箇所もあるとは思いますが、引き続き考えていただきたい。

○事務局

バス停のベンチ等、基本的にはバス事業者で設置してもらうのが現状であるが、市においてベンチの設置にあたり、支援制度がある。バス事業者において、支援制度を利用したいということであれば、相談いただければと思う。

○神戸市婦人団体協議会 高尾委員

バスの利用については、例えば北区でも路線によって乗客数の差がある。客が少ない路線でももう一便遅くまで走ってほしいなどの要望が出たりするが、なかなか乗客数も増えないのでいつも難しいという回答をもらっている。地域の住民に乗ってもらうにはどうすればよいか。

○武庫川女子大学 水野委員

高尾委員からもあったように、地域のニーズと実情が合っていないというところがどうすればいいのかということで、地域でできることはしているとは思いますが、例えば事業者も含めて地域住民・行政との3者での共有意識を持つということがやはり大事だと思う。地道に広げていくということが唯一の方法かと思う。

議事（3）地域公共交通の活性化及び再生に関する法律改正について

○神戸大学 正司委員

- ・今回の中間見直し案では、福祉系や文教系などの交通に関して触れていないが、法改正を受けてどう考えていくのか。
- ・「地域における協議の促進」というのは非常に重要なことだと思うが、国が通知し地域の協議会で議論し意見を提出というのは、具体的にどういうことか。

○事務局

法改正の中身をしっかり確認したうえで、福祉輸送やスクールバスなどありとあらゆる交通モードを用いるという趣旨を踏まえながら、検討させていただく。

○近畿運輸局 片田委員

国としては、基本的には協議会の中で調整頂きたいと考えており、その上で出てきた意見を考慮し、審査をさせて頂くこととなっている。

○神戸大学 小谷会長

市として法改正に関して、何か特に取り組んでいくものはあるか。

○事務局

省令も今後公布されるということなので、中身の確認をしながら検討する。なお、網形成計画がすでに策定されているところについては、地域公共交通計画に読み替えが可能と聞いている。

議事（4）神戸市地域公共交通活性化ワーキンググループ（仮称）について

○近畿運輸局 片田委員

バス待ち環境の改善等にもつながるので、こういった取り組みはぜひ進めていただきたい。当局が国の予算メニューなどを紹介させて頂くことも可能であり、積極的に協力を行っていききたい。

○神戸大学 正司委員

バス事業者を支えているのは利用者なので、住民との連携をどのようにやっていくのかということを考える場としても、できることをやっていけたらと思っている。ぜひともバスだけでなく、鉄道事業者も含めてといった形に早い段階でできればと思う。またデータ分析等も必要になってくる部分もあると考えられるので、市にも協力してもらえればと思う。

○神戸市交通局 児玉委員

京都の事例では、各社が更新・投資をするタイミングで取り組んでおり、公費は一切かけていない。ぜひとも神戸でもこのような前向きな取り組みを行い、交通局としても積極的に参加してまいりたい。

議事（５）その他報告事項

○兵庫県バス協会 水田委員

これまでの議題の中でもあったが、コロナの影響によりバスの利用率の対前年度比は緊急事態宣言中が3～5割、宣言明け後で8～9割といった状況で、この間バスは公共交通機関ということで平常通り運行し相当な赤字である。また、今後の見込みは生活様式等の変化もあり、前年並みには戻ってこないのではないかとということで予測をしており、この赤字分をどのように改善していくのかということが課題となっている。各事業者は、日本バス協会による「バスにおける新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」に沿って、利用者にもマスク着用等協力いただきながらやっていきたいと思っている。貸し切りバスもほとんど動いておらず、団体の旅行がないため疲弊しているが、今後事業者が立ち行かなくなりバスが足りなくなるということも危惧している。

○神戸市自治連絡協議会 岩佐委員

毎年県助成を受けて自治会の団体旅行に行っている。コロナ対策を十分行い、今年も行うことにした。この時期だからこそできることを工夫しながら、やっていくことも大事だと思う。

○兵庫県タクシー協会 奥委員

バスのガイドラインと同様、タクシーも全国ハイヤー・タクシー連合会が作成したガイドラインを県内の事業者配布している。タクシーは車内が狭く、3密ではないかということが言われるが、平均乗車人員は一回あたり1.3人で、3密は避けられる乗り物といえる。乗車前に消毒し、マスクを着用し、飛沫感染防止のビニールシートもつけており、乗客にもマスク着用をお願いしている。タクシーが安全な乗り物だということをPRするため、神戸新聞に広告を掲載するなどしている。

また、近畿運輸局にお聞きするが、MaaSについて、ゆくゆくは自動運転も入ってくるということで、事故が起きた場合誰が責任を負うかなど、法整備はどうなっているのか。こういった法整備と並行してMaaS、自動運転など導入していくべき。

○近畿運輸局 片田委員

おっしゃるとおり、MaaSと自動運転との親和性は高いと認識している。完全自動運転が始まるのはもう少し先だと思っているが、今後、事業者の意見も聞きながら法整備も進んでいくことと思う。

○西日本旅客鉄道株式会社 早川委員

市がこのような計画の見直しに着手・検討していることに感謝を申し上げたい。交通政策基本法に書いてあるとおり、まずは行政があるべき公共交通の総括的なプランを作成し、事業者ができることについて積極的に協力するということになっていると思うので、我々もできることについてしっかりと取り組んでまいりたい。

コロナについては、乗客に安全・安心に乗っていただくために、鉄道事業者として、より一層加速して様々な取り組みを行っている。換気・消毒、車内の抗菌をし、安心してご利用いただけている。過度な混雑を避けるため、混雑状況の開示、時差出勤・テレワークなど、利用客にも協力をさせていただきながら、公共交通の利用促進のPR等一緒に取り組んでいきたい。

with コロナの今の状況は、事業者としては大変な経営危機であり、このような状況が継続すると立ち行かなくなる。よりよい世界と公共交通の事業としての両立をどのように図っていくのか、真剣に考えて計画を立てていかなければと思っている。

○神戸大学 小谷会長

行政の立場から、支援等どのように考えているのか。

○事務局

これまで、国、兵庫県が様々な支援を行ってきている。例えば、国からは、3密回避や感染対策などに対する支援メニューを出していただいている。市においても、国や県の補助を踏まえて、支援策を検討している。

○近畿運輸局 片田委員

国においては、政投銀や公庫といった政府系機関による出融資、雇用調整助成金・持続化給付金等を用意しており、国交省も138億円の二次補正予算を用意しつつ、自治体が地方創生臨時交付金を財源として公共交通を支援するようお願いをしているところ。コロナ対策のための来年度予算要求も行っている。また、当局では、公共交通の安全性をPRするセミナーを10/30に開催する予定。

当局は、管内の事業者の経営状況の調査を行っており適宜本省にも報告している。経営状況を注視しながら、できることは精一杯行って参りたい。

○神戸大学 正司委員

コロナ下で、事業者も余裕がなくなっていて、できることが限られている。少々リスクがある試みでも、思い切ってできるような後押し支援をしてもらえたらと思う。例えば福祉系や文教系の公費をうまく使うことで、2重・3重に予算枠がなっているところを1.5重くらいにするような感じで、うまく投資していただけたらいいと思う。

○武庫川女子大学 水野委員

今回計画の中間見直しということで、計画策定時には考えられなかったことが次々と起きている。今後の5年もどうなっていくのかというところはあるが、今回ワーキンググループが立ち上がるということで、計画は細かく変えることは難しいが、不安定な状況を柔軟に情報交換等が行える体制が生まれたのは素晴らしいと思う。

○神戸大学 正司委員

駅前広場の整備については、まち・人と電車が近づくような整備を行ってほしい。

○神戸大学 織田澤委員

コロナ下の影響で、短期と長期の変化があるが、短期については、切り捨てにならないよう徹底的にサポートすべきで、長期の構造変化に対応できるよう余力を確保するのも政府の役割だと思う。長期的には生活様式の変化に適応していくのが事業者の努力部分で、市民・国民の「移動」という根源的欲求が快適に持続されるというのが社会として望ましいと思う。

○神戸大学 小谷会長

コロナの影響に関しては、事業者が安全・安心な運行を日々努力しながらしているということを市民に知ってもらい、利用者としても十分対策を行って積極的に利用するというのが大事だと思う。その中で、行政からの支援も積極的に検討していただきたいと思う。アフターコロナの都市構造については引き続き研究課題であるが、公共交通のあり方という点も、新たにこの協議会のテーマになってくると思う。過去5年でいろいろな環境変化があり、この1年で突き付けられたコロナとの付き合い方も含め、見直しを行っていただきたいと思う。